

## 西の池水路を点検調査

農地・水・環境保全対策事業の中で、向上対策として施設の長寿命化が取り上げられています。当会では、大

森水路、金原水路の部分改修をおこなってききました。

今年度は西の池水路の改修を計画しています。10月20日役員10名で施設の点検を行いました。西の池水路と呼ぶのは関係する水田の字名が「西の池」と呼ばれているからです。3班の燃えるごみ集積所から西に延びる農道の両側が今回の対象です。

詳しく見てまいりますと、40年間の水流の影響の大きさに驚かされま

す。特に水路本線からの導入部に近いところほど傷みが大きくなっています。関係者の話を総合すると、導入部に近いほど水流の速度が速いため、傷みが大きくなるのではないかとということでした。

また、圃場の高さや水路の相対位置も影響するようです。西の池水路沿線では圃場の高さが比較的高く、水路との落差が少ないことも特徴のようです。このため他の水路に比べると損傷が少ない状態と言えます。

限られた予算で最も効率の良い方法を探りながら、改修内容を決めてまいります。



長年の水流でコンクリートの傷みが見られる

### 市道の草刈り、清掃作業にひとあせ



作業開始前のミーティング



何台あると思いますか？

地区の東側の山手を走る市道、年2回の除草作業が予定されていきました。秋の作業が10月20日に行われました。参加者も多く、また事前に作業をされたところもところどころありましたので、予想以上に早く終了しましたが、地区の住民パワーはすごいですね。刈払機が10台以上ありましたし、あれだけの距離と面積を30分そこそこでやるのですからね。

# 特集 伝統を守る「岩戸神楽」

10月13日の夜、岩屋地区の熊野神社で「岩戸神楽」が奉納されました。焼失した社の復興を記念して始まったといわれていますが、当初は流鏑馬も行われていたという記録もあります。

天の岩戸伝説に基づいて展開するものなので、分かりやすいものとなっています。太陽の女神だった天照大神は、素戔嗚尊の乱暴な様に怒り、岩戸の中に入ってしまった。困った

神たちは「天鈿女命」に岩戸の前で踊らせることにし、その大騒ぎの様子に岩戸を少しだけ開けようとしたその時に「手力男命」がその扉をこじ開け、女神を連れ出したというお話です。

岩戸神楽では、前半に激しい踊りが続きます。「弓の舞」やまさしく「素戔嗚尊舞」は荒々しいものです。やがて天照大神は岩戸に隠れてしまい、世の中は真っ暗です。ここでは舞台の電



「思兼神舞」は首をかしげながら舞台を何度も回る

気も消えて暗くなってしまう。 児屋根と呼ばれる老神がろうそくを手に嘆き悲しみを表します。続いて、その打開策を案じるための「思兼神」が現れ、舞台を回りながら思案を巡らします。そして鈿女の舞となりますが、そこにおたふくが現れ、舞の相手をしながら大笑いを誘います。次の瞬間、真っ赤な装束の鬼「手力男命」

が本殿の奥から走り出てきます。本殿から飛び出さないように、受け止めて舞台に戻すのも地元の若者の大事な役目です。

やがて鬼は舞台の隅にある植え込みの束に何度もとびかかり、とうとうそれを引き倒して、神楽は終わりとなります。

こうした神楽のおこりは段々と日中

が短くなる時期に、つぎにまた暖かい季節が戻ってくるように願ったものではないかと言われています。

岩屋、仁保津地区ではこの神楽を支え続けています。毎年9月の中ごろから稽古が始まり、本番に備えます。後継者の確保に頭を痛めているとのことですが、400年の歴史がいつまでも続いていくと良いですね。

## 出た!! 「ピタリ賞」かぼちゃ重量当てクイズ



八方原ふれあい朝市では、9月にかぼちゃの重量当てクイズを行っていました。9月28日に、正解が発表され、当選者が決まりました。今回なんと「ピタリ賞」17.5kgを見事に当てたのは、岩屋地区の加藤さん(写真)です。加藤さんは朝市の常連さんの一人です。賞品の新米が贈られました。おめでとございます。これからも、毎週来てくださいね。

### 努力の成果

農事組合法人八方原は麦作を始めて数年ですが、この度その取り組みが認められ、JAから表彰を受けました。

